

10月の観察アルバム



今回のテーマは「樹木と鳥の持ちつ持たれつ」でした。当日は台風の影響で中止となりました。下見では植物の種子散布に注目して、木の実や草の実を観察しましたが、まだ熟していない青い実がほとんどでした。

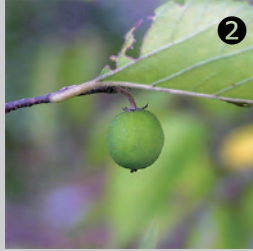
鳥は冬鳥として飛来するカモは観察できませんでした。遊歩道ではモズが高鳴きする姿が頻繁に見られました。



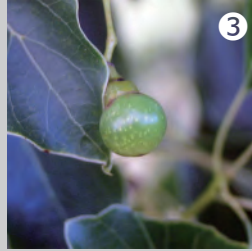
今月の案内人 伊東茂子さん



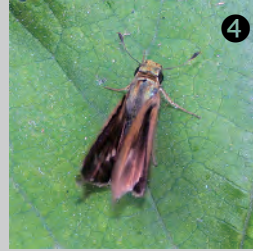
鳥のフンから発芽したと思われるエノキ



果実食の鳥に人気がある熟すと甘いムクノキの実



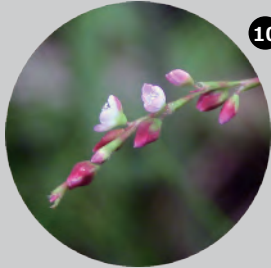
熟すと黒紫色になるクスノキの実



遊歩道のツツジで見つけたイチモンジセセリ



生垣や街路樹によく利用されるトウネズミモチ(実)



ポントクタデの花

ヤナギタデに似ています。ヤナギタデは辛味がある葉が刺身のツマなどに使われますが、ポントクタデの葉には辛味がありません。



10月てがたんの下見ルート



オオオナモミの実

カギ状の果実で動物にくっつく代表的なくっつき虫です。他にもセンダングサの仲間やイノコヅチの仲間もカギ状の突起があります。



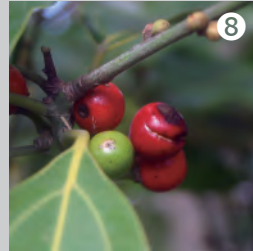
茎にトゲがあるイシミカワの実



タデの名前がついているがアカバナ科のチョウジタデ



エノキの枝に巻きついたナツツタの実



赤く色づいた実が目立ちはじめたシロダモ



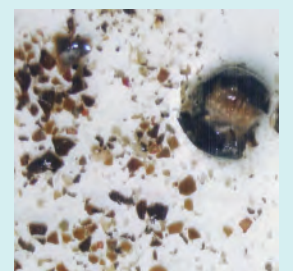
粘液で動物にくっつく子チミザサ

今月の鳥 キジバト ハト目ハト科

キジバトは我孫子では1年を通して見られる留鳥で、主に種子や果実を食べます。植物は鳥に果実を食べてもらい、消化されなかった種子がフンと一緒に排出されることで、種子を遠くまで運んでもらいます。餌を提供する代わりに種子散布してもらつ、持ちつ持たれつの関係です。しかし、キジバトの場合は筋胃が発達しているので、種子まですり潰されてしまいます。植物が一方的に餌を提供している関係です。



キジバト



キジバトの胃から見つかった砕けた植物の種子